

ジェンダー配慮の良い事例(参考)

プロジェクト情報

- 国名：ホンジュラス
- 案件名：地方女性のための小規模起業支援プロジェクト（技術協力プロジェクト）
- 期間：2003年11月から2006年10月（フォローアップ：2006年11月から2007年10月）
- 先方機関：家族支援計画、職業訓練庁

1. プロジェクト概要

【1】背景・経緯

ホンジュラスは、中南米諸国の中でも最貧困国の一つである。人口(740万人)の65.3%が一日2ドル以下の貧困状態にあり、貧困層を形成する人の多くは女性、子供、失業者であるといわれる。また労働人口のうち男性の経済活動比率が85%であるのに対し、女性は41%と男性の半数を下回る状況にある。

こうした状況下、ホンジュラス政府はPRSPに基づく貧困削減への取り組みとして、中長期的に収入向上に効果のある小規模起業に着目し、関係機関との連携により貧困地域に居住する女性を対象とした小規模起業を支援するプロジェクトを我が国に対し要請してきた。これに対し我が国は、社会的弱者の生活向上を目的とした大統領府直轄機関である「家族支援計画」(PRAF)を本プロジェクトのカウンターパート機関とするとともに、職業訓練分野で長年の経験を持つ職業訓練庁(INFOP)へ講師派遣等を行う協力機関とすることで合意した。

【2】プロジェクト目標と活動

貧困層が集中する西部地域に居住する女性が地域の資源を活用して持続可能な小規模企業を組織・運営できることを目的とする。小規模起業支援の内容は、コミュニティ分析調査、市場調査、女性の組織化支援、各種研修の実施、清算・販売活動支援など一連の小規模起業のためのプロセスの充実・強化を図るものである。

2. プロジェクトにおけるジェンダー配慮の実施

★ コミュニティー分析の実施

女性の小規模企業事業の持続性を確保するためには、プロジェクトの対象者である貧困地域に居住する女性やそれらを取り巻く地域特性、文化的・社会的背景に配慮したプロジェクト運営を進めることが重要である。そこでプロジェクトでは、まずベースライン調査において対象コミュニティにおける性別役割分担などのコミュニティ分析を行い、プロジェクト対象地域であるコミュニティや世帯内における状況の把握を行った。

★ 女性のエンパワメントを視野に入れたアプローチの採用！

対象となる女性の半数以上は小学校を中退しており、十分な教育を受けていない。そのためプロジェクトでは、起業のための技術研修、企業研修と共に、技術習得や企業の前提となる個々人の内面の開発や共同作業をする際の心構えなどを養う社会研修を充実させ、よりきめの細かい研修を実施した。

★ コミュニティ全体でプロジェクトを育てる環境づくり！

プロジェクトの直接の裨益者は貧困地域に居住する女性であるが、女性のみを対象とし、その家族やコミュニティの十分な理解を得る工夫がなされなければ、家族やコミュニティ内で摩擦が起きることも考えられる。プロジェクトでは、女性だけではなくコミュニティ全体でプロジェクトを育てるという環境づくりを目指し、住民集会等において繰り返し、対象女性の家族やコミュニティ・リーダーなどにプロジェクトの意義やその効果への理解促進を図った。

★ 「エンパワメント」の可視化

3年間の協力により、組織化した16グループが起業に成功し、そのうち6つは自立的経営の目処が立つまでに至った。プロジェクトでは、女性の自立的小規模企業の運営とともに、女性たちがこうした一連の起業化プロセスを経て、エンパワーされることも目標の一つとした。この「エンパワメント」には、起業化による経済的側面のみならず、たとえば得られた収入を管理し必要な事柄へ活用できる意思決定力、人生の選択肢を広げて他活動でも身につけた交渉力を行使できる力などを身につけることなども含まれる。

しかし、エンパワメントのプロセスである人々の意識や行動の変容などは、成果として測り明示することが難しい。プロジェクトでは、エンパワメント指標として、「参加する」「発言する」「意識が変容する」「行動する」「協力・連帯する」「創造する」「新たな目標を持つ」「交渉する」「満足する」「自信を獲得する」「管理する」「意思決定する」という12項目¹を設定し、女性の意識、行動の変容、性別役割分業やジェンダー関係の変容についての測定を試みってきた。これにより、小規模起業活動を通じた女性のエンパワメント効果について定量的な評価を可能とした。プロジェクト終了時点では、プロジェクトによる起業活動を通じて、現金を所得創出し家計に貢献したり、自分たちの利益のためだけでなく地域に還元するなど社会的な意識が高いグループが形成されたり、各グループが自治体首長レベルに対してグループ活動支援についての積極的な働きかけを行ったりと、様々なエンパワメント効果が確認されている。
(2007年1月作成)

¹ 藤掛洋子、2000、「農村女性のエンパワメントに関する考察—パラグアイ共和国S村の住民女性が実施した生活改善プロジェクトの事例より—」、『お茶の水女子大学大学院修士論文』。

——、2001、「プロジェクトが住民女性にもたらした質的变化の評価にむけて—パラグアイ共和国S村の住民女性が実施した生活改善プロジェクトの事例より—」、『日本評価研究』、第1巻、第2号、pp.29-44。